



統計専門家の介入～CRST に相談

☆推薦文☆

この論文は、戸島雅宏先生が所属されるかみいち総合病院において DVT の疑いで D ダイマー検査および下肢超音波検査なし CT 検査を施行した患者 1,657 人のデータを解析したもので、対象者数も多く、研究目的に新規性があり、とても質の高い論文です。投稿過程で統計解析に詳しい人の助言を求めることを要求され、私に支援依頼がありました。私が指摘したのは、対応のある 2×2 表の検定は McNemar 検定を行うことくらいでした。ところで、戸島雅宏先生は、私の出身県である富山県の自治医科大学第 1 期生でして、私の初期研修では富山県立中央病院胸部循環器外科を 4 か月ローテーションし、その間に外科のいろはのみならず、医師としての心構えなども教えていただきました。今にして思えば、戸島先生は私にとって医療プロフェッショナリズムを教えていただいた最初のメンターでした。今回の CRST としての支援を通して、わずかばかりではありますが、恩返しのようなものができたかもしれません。

自治医科大学総合周産期母子医療センター母体・胎児集中治療管理部
大口 昭英

戸島 雅宏 (富山県 1 期卒業)

「深部静脈血栓症診断における新年齢調整 D ダイマーカットオフ値の検討」
(戸島 雅宏, 安藤 大河, 大口 昭英 静脈学 2025 ; 36 (1) : 25-32)

D ダイマー検査は深部静脈血栓症(以下 DVT)の除外診断に有用とされているが、高齢者では特異度が低いことから有用性の低下が指摘されている。今回 DVT 疑いの 1,657 人を対象に、10 歳ごとに群分けした 5 群の ROC 曲線解析による至適 D ダイマーカットオフ値の単回帰解析を行い、新年齢調整 D ダイマーカットオフ値を年齢 $\times 0.03 \mu\text{g/ml}$ と決定した。従来の基準値 ($1.0 \mu\text{g/ml}$ 以下)と比較して、感度の低下なく特異度が 96.6%へ増加した。高齢者の深部静脈血栓症診断において、新年齢調整 D ダイマーカットオフ値は安全性を低下することなく D ダイマー検査の有用性を向上できると考えられた。という内容の論文です。



査読の段階で、統計専門家の介入を強く勧められました。インターネットで探しますと統計専門家の有料サイトがありますが、かなりの高額のため迷っておりました。そのとき母校の CRST を思い出し、メンバーである本県の大口先生へ相談しましたところ快く引き受けてくれました。おかげでその後査読も順調に進み論文受理の運びとなりました。さらに CRST は無料に対応してくれるとのことで大変助かり、感謝しております。

各種の専門家が限られる地方において、論文作成の種々の段階で協力していただける CRST の存在を卒業生に広く伝えたいと思います。

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7476 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>